女子中学生の声！「放射能はうつりません」

‥平成 29 年度秦野市人権擁護委員会人権に関わる作文最優秀賞‥

福田 利雄（会員番号 11）

私が、秦野南中学校１年生根本さんの作文を読む機会を得る事が出来たのは、自慢になるかもしれませんが、秦野南中学校２年になる私の孫が、秦野市人権擁護委員会が募集した人権に関する作文にて最優秀賞を受けた事による。９校５５８編の作文が寄せられ３編が最優秀賞を受け、根本さんの作文も最優秀賞を受けた１編である。その内容は、まさに我が神奈川県放射線友の会（神奈川放友会）が目標として活動しているものである。

福島原発事故に関連する「風評被害」と「いじめ」は、震災から７年経過した現在においても問題となっている。１月１４日の読売新聞社説にも、この問題が取り上げられ、福島の風評被害、いじめ対策として、復興庁の基本方針として「放射線への正しい理解を広める」事が戦略の一つとして述べられている。女子中学生の「いじめ」と「風評被害」への強い想い、我々の活動を後押ししてくれている様に思われます。

秦野市人権擁護委員会　最優秀賞

厚木人権擁護委員協議会　入選

放射能はうつりません

南中学校　1年　根本　莉汐

私は、最近各地で起こっている地震情報をテレビで観る度に、6年前の大きな地震を思い出します。そして、その時の地震によって、いじめを経験した人がたくさんいることを、私は最近になって知りました。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生し、地震や津波の影響により家屋の全・半壊があいついだり、原発事故により居住区域が制限されました。 まだ、震災の直後には耳にしなかった原発によってのいじめを、最近6年たって新聞やテレビで取り上げられるようになり初めて知り、とてもショックでした。私がこの大きな地震を経験したのは保育園の年長の時で、それからかなりの年月が立ったような気がします。でも、いじめを受けたり今もまだ受けている人がいるとしたら、この6年はそう感じはしないのだろうと思います。

6年前、福島原発の事故で出た放射能からのがれるため、福島の学校から避難先の他県の学校へ転校した小学生や中学生もたくさんいました。その中で、横浜市に自主避難したある男子生徒は転校先でいじめに合い、名前に「菌」をつけられ、暴力や金銭の要求までされました。このいじめに関する報告書が学校や市に提出されましたが、学校や市は対応しなかったそうです。そこで、男子生徒は「今まで何回も死のうと思った。でも震災ではいっぱい死んだから、辛いけど僕は生きると決めた。」と自分の思いをつづった手紙を出しました。この報道が多く取り上げられ、私は原発によるいじめを考えるようになりました。 他にも「福島へ帰れ」と言われ転校した児童や、小学生時代に「放射能」とあだ名をつけられたという中学生もいます。「お前らのせいで原発が爆発したんだ。」「放射能がつくから近づくな」と言われ、それでも親や学校の先生にもこのことを伝えられなかった子供達もいます。

調査した結果、今年3月までに199件のいじめが報告され、これ以外にも確認中なものも何件もあるそうです。 突然福島から知らない土地に避難するだけでも大変なのに、転校してからもいじめを受け、本当に苦しかったと思います。福島から来ただけなのに「放射能」というあだ名を付けられたり金銭を要求されたりして、私もくやしい気持ちでいっぱいです。子供がそういうことを言うのは、大人がきちんと放射線について理解していなかったり、避難をしなくてはならない人々のつらい気持ちを伝えていなかったりするからではないかと私は思います。

私の祖父母は福島県の出身です。親せきもたくさん福島に住んでいて、東日本大震災の時には大変な思いをした人もいます。海の近くに住んでいる親せきは、幸いにも津波や原発の被害は受けなかったものの、家も職場も壊れ、他の親せきの家に避難しなければなりませんでした。会社で塩を作る仕事をしていましたが、その工場は閉鎖され、今は同じ会社の兵庫県にある工場で働いて単身ふ任をしています。農家の親せきは、震災後に風評被害によって野菜が売れなくなってしまい、そのことをなげいていました。きちんと放射能検査をして安全だと保証されている野菜でも「福島県産」というだけで買ってもらえないのです。

私の家では、福島の親せきから送られて来た野菜や果物、お店で売られている福島県産の物を率先して食べていました。そして、母や祖父母から「震災で避難して来た人がいたなら親切にしなさい。」と教えられました。原発いじめのことがテレビや新聞で取り上げられた時も、家族でそのことについて話しました。

そして、私はいじめを受けた子供達が私のいる学校に転校して来てくれたなら、そんないじめを受けずにすんだかもしれないと思いました。なので、そういう差別をする人がいるということがくやしいです。

私はこれから、高校生や大学生になるかもしれません。その時、いろいろな所から生徒が集まって来るだろうし、その中には避難して来た友達もいるかもしれません。でもみんな同じ人で、何の変わりもないと思います。なので、私は特別には思わず、他の友達と同じように接したいと思います。そして、少しでもいじめや理解不足が減るように、自分自身がもっと知識を身につけて、それをきちんと伝えられるようになりたいです。

女子中学１年生根本さんの作文「放射能はうつりません」をお読みになって、皆さんは、どのような感想を持ったでしょうか。

私は昨年、福島第一原発事故に関連する「いじめ」と「風評被害」に心を痛め、友人等と６年経過した東日本大震災の被災地、宮城、岩手県を訪ね復興状況を視察し報告する事が出来た。また放射線を正しく理解するための副読本「食と放射線」第３版の出版にも協力させてもらった。この作文を読み、「大人がきちんと放射線を理解していない、避難者への思いやりがない・・」との声に、あらためて我々の活動が道半ばであると痛感した。そして、神奈川放友会の活動目標の一つでもある「放射線の安全・安心に関する基礎知識の社会的啓発活動」に尽力されている会員諸氏にも読んでもらいたいと思った。

我が会の編集委員会及び秦野市 市民部 市民相談人権課に連絡し、人権・同和担当西澤様のお力添えを頂き、南中学校、根本さん本人、ご家族に、本会の機関紙である Newsletter への掲載の許可を得ることが出来た。

東日本大震災から６年経過しての、いじめ問題等を契機に、復興庁、文部科学省は全国の小中高生と教師向けの「放射線に関する副読本」の改訂に取り組む様である。１９８０年から約３０年間、小中高生に対し放射線教育が一切されなかったことが、今回の福島原発事故に関連するいじめ、風評被害につながっていると思われる。

「放射線の正しい理解」への道は遠く険しいが、正しい学校教育により理解が進むものと思われる。そして神奈川放友会の活動は、その後押しをしている！意義のあるもの！とあらためて確信する事が出来た。